

# <センター通信 5月号>

## ～終末期医療について～

中津川市地域総合医療センター  
船橋浩一

突然ですが、皆さんはご自身やご家族の人生の最後の日々における医療や生活について考えたり、話し合ったりされたことはありますか？

今年3月に発表された厚生労働省の調査では、終末期医療について一般の方々には以下の様な回答をされています。

質問： あなたは、ご自身の死が近い場合に受けたい医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。

詳しく話し合っている	2.8%
一応話し合ったことがある	39.4%
全く話し合ったことがない	55.9%

質問： あなたは、自分で判断できなくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか

賛成である	69.7%（実際に書面を作成している人はそのうち3.2%）
反対である	2.3%
わからない	27.0%

終末期医療について家族と全く話し合ったことの無い人が半数以上であり、終末期医療に関する希望を書面で表すことに7割の人が賛成しているものの、実際にその様な希望を書き示している人はほとんどいないことが分かります。

日々の生活において、人の死は非日常の出来事であり、また出来ることなら避けたい話題かもしれません。しかし、災害に対して日頃の準備が重要であるのと同じ様に、人生の終末期に対しても日頃の準備が望ましいことが明らかになりつつあります。

最近の研究では、患者さん自身の目標や価値観、医療に関する希望、代理決定者(自分が判断出来なくなった時に代わりに判断する人)などについて、あらかじめ話し合っておいた方が、亡くなった方の家族のストレスや不安、うつ傾向が軽減され、また患者さん自身と家族の満足度が高くなることが示されています。

では具体的に何をすれば良いのでしょうか。

近頃ではテレビや新聞などで、終末期医療に関するテーマが頻繁に取り上げられています。まずはご家族と一緒にその様な番組や記事を見て、「自分はあの様な生き方・死に方が良い」とか「自分ならこうしたい」といった率直な感想を話し合ってみてはいかがでしょうか。

もちろんいざと言う時には、私たち医療従事者から様々な選択肢や情報を提供させて頂き、患者さんやご家族と十分に話し合い、意思決定のお手伝いをさせて頂きます。

「もしも…」にも備えた上で、楽しく健康な時間を過ごせると良いですね。